

第七編 一般結論

抑々此ノ二上火山ハ所謂阿蘇火山脈(?)ト稱スル系統ニ屬スル新火山ニシテ四國ノ北海岸ヲ横ギリ東西ニ走レル一大地帯構造線弱線ノ西端所謂大和川陷落地區ノ上ニ建設セラレタルモノナリ尙ホ又岩石學上ヨリノ見地ヨリ論ズルモ四國ノ北部ニ沿フテ大發展スル處ノ所謂讃岐岩類ノ岩石區 (Petrographic province)ニ屬スルモノノ如シ。

サレバ此ノ火山タルヤ其ノ形狀小規模ニシテ高カラザルモ四國島北岸ト大和地方トノ地帯構造及ビ火山岩類ノ關係連結ノ上ニハ尤モ重要ナル且又缺クベカラザル連鎖タルハ言フ俟タザル所ナルベシ、而シテ其ノ噴出時代ノ如キモ四國地方ヲ踏査シ比較研究ノ後ニアラザレバ茲ニ明言シ能ハザルモ恐ラクハ第三期ノ末葉ヨリ第四期ノ初期ニ渡リシモノナルベキハ前編中屢々記載セシガ如シ、次ニ基底ヲ正片麻岩ニ置キ特種ノ熔岩ヨリ成レル此ノ火山ノ特徴ヲ擧ゲンカ。

(I) 火山灰及ビ火山粉砕物ノ甚ダ少ナキコトナリ之レ瓦斯及水蒸氣ノ少ナカリシ結果ナラン從テ噴火口爆發口ト稱スベキモノ其ノ跡ヲ止メズ噴火管ノ如キモ最後ノ熔岩ノ爲メニ塞閉サレタリ(II) 山體ハ全部互ニ異ナル四ツノ熔岩流ノミヨリナルガ

故ニ一見層狀火山ノ如キ觀アルモ噴出其ノ他ノ狀態ニ於テハ塊狀火山ト大ニ類スル所アリ(II) 熔岩噴出ノ時期モ略ボ連續的ナリシガ爲メ山形又復式火山ノ形態ヲナサズ。

(IV) 此ノ火山ニハ初メヨリ副産物タル温泉モナク又餘勢作用モナカリシガ如シ、從テ目下尙ホ何等ノ活動モナク今後トモ永ク爆發等ノ活動作用ナキモノナルベシ。
次ギニ吾人各熔岩ニ對スル結論ニ移ラン。

(I) 我ガ區域内ニ在ル新火山岩ノ凡テノモノハ化學上角閃輝石富士岩(?)ト同様又ハ相似タル成分ノ岩液ヨリ分漿ノ結果生ゼシ岩類ニシテ母液分漿ノ際異ナル時代ニ於ケル分離岩漿ノ成分ヲ代表セシモノニ外ナラズ、其ノ順序タルヤ尤モ酸性ナル松香石ヲ初メトシ漸次基性ノ岩石ハ産ミ出サレ最後ノ殘岩漿ハ含黑雲母古銅石富士岩トシテ現ハレタルナリ故ニ此分液ノ有様ハ通常吾人ノ見ル (Decreasing basicity) 方法トハ少シク趣ヲ異ニシ (Increasing basicity) ノ有様ニ進行シタリト云ハザルベカラズ。

(II) 古銅石ト柘榴石トノ間ニハ一定ノ關係アルガ如シ即チ古銅石ト柘榴石トハ共ニ發展スルコト決シテナシ古銅石ノ増加流テ初メテ顯然タル勢力ヲ振フニ至ル今例ヲ示サンカ岩石 No. 2 及

No.5 ハ全ク此ノ二極限ノ場合ヲ示シタルモノナルベシ。

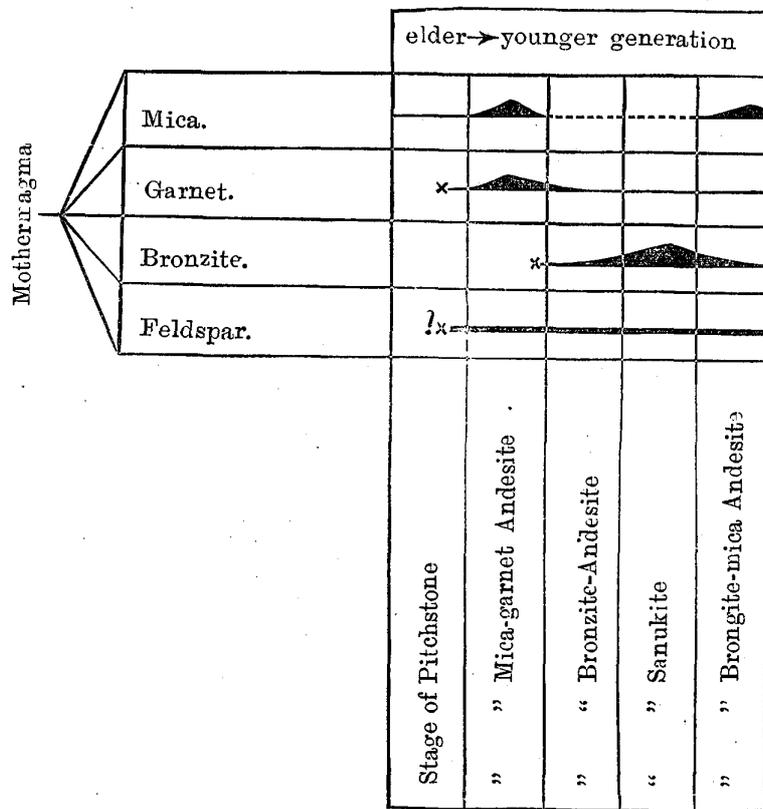
No.2 || feldspar + mica + garnet

No.5 || feldspar + mica + bronzite

全體此ノ柘榴石ナルモノハ區域内凡テノ新成火山岩ニ見出サレ嘗テ英閃安山岩等ニ於テ單ニ副成分トシテ論ジ來リシモノトハ其ノ性質又ハ成分トシテノ價値ニ於テ大ニ異ナルモノアルガ如シ即チ我が區域内ニ於テハ重用ナル成分ノ一トシテ教ヘラルベキモノニシテ古銅石トハ宏接ノ關係ヲ有スルコト恰モ一種ノ花崗岩ニオケル白雲母ト電氣石トノ關係ノ如シ是レ吾人ハ茲ニ此ノ柘榴石ヲ以テ代換物トシテ論ゼントスル所以ナリ。

(III) 最後ニ此ノ柘榴石ノ母漿中ニ生ゼシ原因歴史ニ就テ考察スルニ第一ノ原因ハ母漿中ニ黑雲母ノ結晶發現セシ結果ニアラザルカ、抑々此ノ母漿ハ角閃、輝石安山岩ニ相當スル又ハ diop. abiticニ相當スル成分ヲ有スルモノニシテ普通ノ狀態ニ於テハ黑雲母ノ結晶ヲ生ゼザル傾向ヲ有スルモノナルベシ然ルニ當時ノ或特別ナル物理的状態ノ元ニ母漿内ニ黑雲母ノ結晶ハ突然トシテ作ラレタリ、其ノ結果トシテ母漿中ニ含マレシ各 Korn 間ノ關係ハ大ニ破壊セラレ遂ニハ金剛砂ノ成生ニ好機

會ヲ與ヘタルモノナルベシ、茲ニ於テカ豫定ノ結晶並ニ順序ハ全ク破ラレテ古銅石ノ結晶時代トナリ最後ニ再ビ黑雲母ノ



結晶ヲ誘フニ至レルモノナラン、尙ホ此ノ間ニ於テ長石ハ絶ヘズ漸次基性ノ種類ニ結晶サレツ、アリシコトハ明カナリ以上ノ推論ハ普通ノ母漿ガ或ル特別ナル物理的變化ノ爲メニ黑雲母ノ結晶成生ヲ促シ遂ニハ金剛砂ノ成生ニ好機會ヲ與ヘタルト云フコトナリシガ更ニ吾人ハ前説ト全ク方向ヲ換ヘ此ノ

母漿ノ化學的成分ガ元ト元ト一種特別ノ關係ヲ有シタルモノ
ニシテ石榴石ハ當然其ノ豫定ノ結晶ヲ始メタルモノニ外ナラ
ズトノ推論ナキニシモアラズ

即チ前説ハ物理的特別ノ状態ヲ原因トシ後説ハ化學的特別成
分ヲ原因トセルナリ然レドモ其ノ孰レガ其當ヲ得タルモノナ
ルヤハ後日ノ研究ニ讓ラン茲ニ表ヲカ、ゲ以テ此等新火山岩
類概見ノ便ニ供セントス